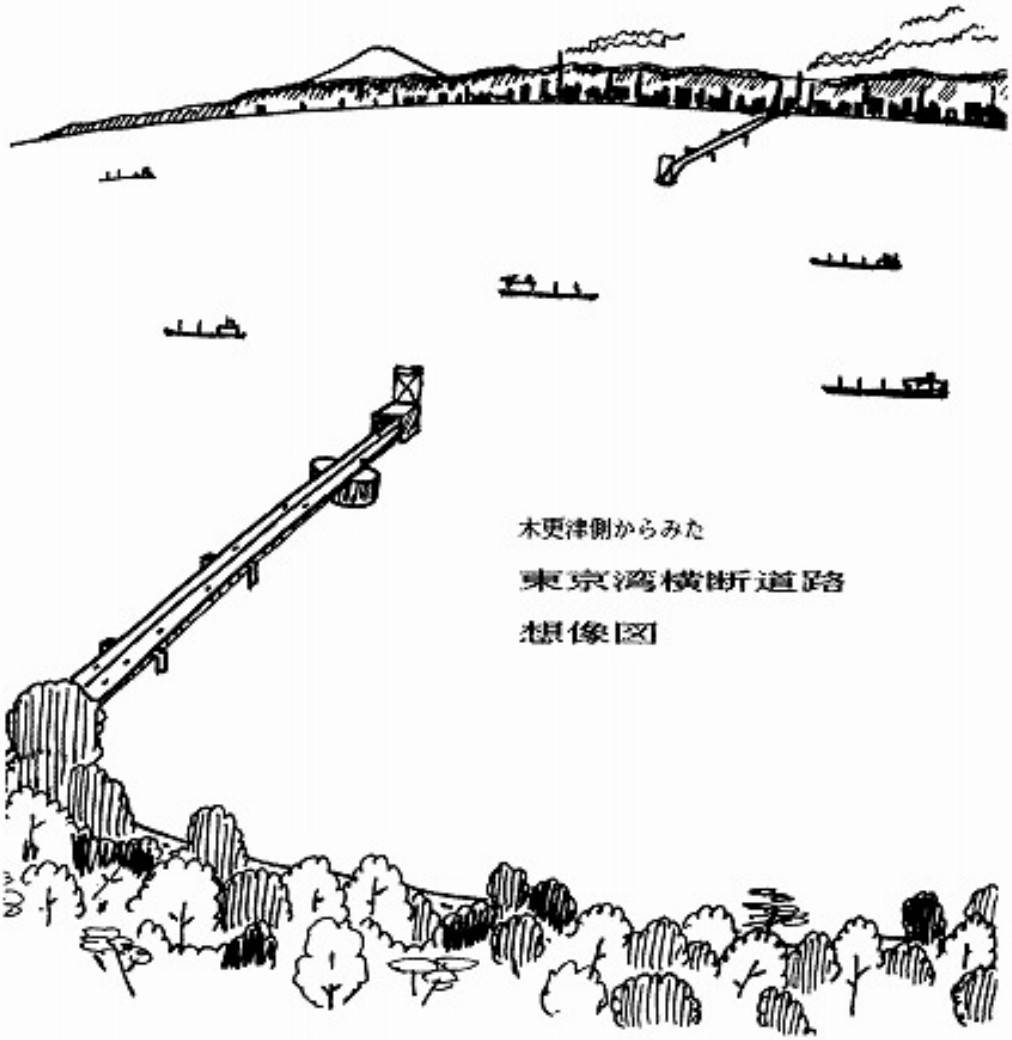
多賀工業会千葉県支部会報

第４号



木更津側からみた
東京湾横断道路
想像図

平成２年１０月

「趣味」の話

１９機　山田泰雄

今年は、猛暑の連続でした。同窓生の皆様お元気ですか。

皆様は色々の趣味をお持ちの事と思いますが、ここでお話したいのは、一時の思いつきではなくて、永い生涯にかけて続けて行ける趣味の話なのです。では少しの間読んで下さい。

世の中段々仕事の時間を減らし、反対に休みの日を増やす方に向かって進んでいる様に思われます。その上寿命は長くなりつつあるようですが会社の定年は伸びていないのです。

少し話が余談になりましたが、どのような場合にでも生涯に友とするにたる趣味と言うのが必要であると考えられます。

ここで少し考えて頂きたいのは生涯の意味ですが、これはある程度、年をとっても楽しめると言う事と解釈して戴きますと、ラグビーや山スキーは難しいようですし、碁や将棋は出来るでしょうが、もう少し体を動かした方がよいと思われます。

まあ一つだけ万全のは、なかなか考える程難しい事のようで、二、三、合せ持つ事に、なるでしょうが、皆様が各自それぞれ出来そうなものをみつけだして貰う以外には方法がないのではないかと思います。

幸い本紙に御投稿いただいた方々は、それぞれ趣味をお持ちで楽しんでおられます。

「人、年と共に知人は増えるが友人は減ってゆく」と言うことは事実として感じられます。

趣味を通じて友人との出会い等に本紙がお役にたてば望外の幸せです。

自由への原点　２５電　寺門龍一　（先生は多賀工業会名誉会長）

９月９日いわき支部総会で千葉県支部幹事長の三幣正人さんに久しぶりにお会いした。あるいは、その言い方は正しくないかも知れない。ゆっくりお話ししたのは、今度が、初めてだったと思うからである。なにしろ三幣さんは、私が多賀に入学した昭和２２年に自治委員長をされていた怖い方だったのである。

５０年間の茨城大学工学部の歴史の中で、学科に分けることなく学生を入学させたのは、後にも先にも昭和２２年ただ一回であった。その１年Ｃ組には、陸軍士官学校帰りの、四宮信次君や大沼忠正君がいた。私も陸軍幼年学校帰りだったから、いわば両君は上官に当たるわけで、陸軍なら、挙手の礼で敬意を表さなければならないところであるが、同級生であり、さらに同じ陸軍の飯を食ったということで、親しく交わっていた。

あれは、その年の初夏だったと思う。その頃、学校は一種の紛争状態にあって、間もなく橋本宇一校長先生は辞任されることになるのである。そんな折りだったから１年生はよく講堂に集められて、上級生の演説を聞かされた。入学早々で、よく訳の分からないところもあったが、おぼろげながら状況は把握できた。ある日の演説で、何人かの教官が槍玉に挙げられて追及され、その中に、私達の学級担任の名もあった。その直後の昼休みだったろう。校舎脇の芝生に座り、陸軍帰りに二、三人を加えた仲間達で、演説に対する批判を論じ合っていた。少年で陸軍の教育を受けた人間にとって、担任の先生を排斥することなぞ到底許せることではなかったのである。

その時である。静かに頭上の窓が開いた。「君達は１年生ですか」と優しいが幾分かすれた声が落ちて来た。「実情をよく知らないで批判するのは止めなさい」、それが三幣さんだったのである。「説明してあげましょうか」と諄々と説かれるのだった。必ずしも総てを納得したのではなかったが、陸軍のこちこちの人間に、自由の風が吹き込んでくる思いだった。三幣さんは、まさに戦後の学園における自由の原点のような雰囲気を漂わせ、これからどう生きなければならないかという何かを感じさせてくれた。それ以来、私は三幣さんに好感を抱くようになった。

永年の思いをこめて、いわき支部では、三幣さんにその出来事を話したのだった。

趣味と健康管理　　３７工化　富田宣吉

入社以来２８年経過しましたが、この間大病もせず元気に働いて参りました。

健康管理の秘訣と言うものはなく、極く常識的な管理方法、即ち、暴飲暴食、夜更しをしない事、節酒、定期健康診断の受診、運動又は体を動かす事、等に努めました。ところが最近は社の内外において、精神面のストレスが溜り易いため、次の様な趣味を兼ねた健康管理方法を採り入れています。

先ず、職場にあっては関係者と良く会話をする事にしています。お互いに多忙の為、用件の報告のみで片付けてしまい勝ちですが、途中経過や、纏める過程の考え方を知る事も、大切でありお互いの理解が深まります。次に週休２日になった今日、土、日を利用して気持ちをリフレッシュするのには、絶好の機会です。

私は果樹を中心とした植木の手入れを趣味としています。現在、リンゴ、アケビ、ザクロ、ムベ、キュウイフルーツ、カリン等を中心に栽培しております。これらの水撒き、除草、害虫駆除等の作業を毎週行っています。植木の成長は手入れの状況と比例の関係にあり、なかなか可愛いものです。また、ストレス解消策として、多くの方々とお話する様にに努めております。

中学、高校の同窓会、多賀工業会の支部総会にも、最近は万難を排して出席しています そうした席上では各方面の専門家が居られ有意義なお話を伺う事ができます。中学の同窓会では、子供の頃が思い起こされ懐かしいものです。

最近、私は仕事の都合で海外の方ともお話する機会が多くなりました。

この為読書も必須となっております。朝夕の通勤電車を利用し、せっせと読書に励んでおります。

これからは、単に専門知識のみではなく多分野の事、文学、歴史、芸術に関する知識が要求される時代が到来するものと予想されます。

ストレスを解消しつつ国際人になる・これは正に一石二鳥です。

ある新聞記事より　　２５電　森　勇一

最近の若者の中には、三無主義（無気力、無関心、無責任）の者が目立つが、この傾向は次第に低年齢化しつつあり憂うるべき事と思う。その原因は色々挙げられようが、少子化が進む中での幼時期の子育てに問題（過保護現象）はないであろうか。

偶々、今年７月末に定年を迎えられ、上野動物園長を最期に退職なさった、中川志郎氏の体験談が新聞に掲載されていたので、一部をご紹介します。彼は永い間、多くの哺乳動物の面倒を見た立場から、動物の母と子が体を接触させるには

１　抱擁型・・・生まれた子を母親がある期間、自らの体の一部に抱きかかえる型
　　（例　サルの仲間）

２　舐触型・・・文字通り舐める動物・抱擁する事は出来ないが、母親が子を舐め舌で触る型（例、トラ、ライオンの様な肉食動物、キリン、シマウマのような草食動物）

３　添い寝型・・・母親が体を丸めて、ある期間、腹部に子を抱え込む型
　　（例　テン、イタチ、クマ等子供が未熟な状態で生まれる種類に多い）

の３つのタイプがあり、何れも哺乳の時期に母、子が体を密着させる仕組みになっている事には興味を誘われる。人間も哺乳動物・乳児期に密着して世話をしてくれる存在に触れている内にその人を頼りにする事が出来ると言う基本的な信頼感を学びとる。それがあって初めて、社会に対して積極的な態度がとれるようになるが、この信頼感が培われていない場合は、他人と親しい関係が持てない、人生に無関心、衝動が抑制できないと言った結果を招く事になる。サルの母親は密着の日々の後、一時期、子を突き放す人間の子供の成長も、母親密着、しつけ、社会化の３段階をゆるがせず子育てされたら如何・・・

同窓の皆さんは、親業を卒業された方、近く卒業される方、目下、取り組み中の方、これからだと言う方等、様々と思いますがいかがでしょうか。

（男女同権の世の中、父親としても存在価値を考えたいものですね。）

続「酒・談議」　　２２機　山本芳正

前号掲載の「酒・談議」が好評であったかどうかおかまいなしに続きを書く事にしました。前回、書き落とした事があります。

それは純米酒の飲み方です。純米酒は、冷蔵庫に入れて冷やして飲むのが最高です。

いわゆる酒の臭いなしで、味をじっくり味わえるからです。

居酒屋でも、純米酒の銘柄を指定すると、黙って冷えたものが出てきます。盃もおちょこでなく、冷やした日本酒グラスです。また一段とムードが宜しいようですね。

［親の意見と冷酒は、後で利く］等と申しますが、味わってじっくり飲めば、決してそ様な事はありません。飲み方の風格をチョット上げましょう。

ところで、日本酒がどういう製造工程で出来るか、エンジニアともなれば、多少の関心がお有りでしょう。楽しみながら勉強出来る所があります。

奥多摩を散策した後、青梅線の沢井にある、沢乃井酒蔵の見学コースをお奨めします。その後、直営の料亭「ままごと屋」（電話　０４２８－７８－９５２３）で一杯やるのが大変結構です。

もう一つ日本酒の事なら何でもという所があります。銀座４丁目交差点そばの「日本酒センター」（電話　０３－５７５－０６５６）に行けば、全国各地の銘柄がずらり。そしてコンピューターが、何処の酒屋で、それを売っているか、直ぐ答えをサビースしてくれます。お酒に関する、色々な情報もあります。ノメリ込みたい人はどうぞ。

ところで、全国にいくつもの「日本酒愛好会」があり、それぞれの会で推薦する美酒、銘酒の中から選んで、全国日本酒の味巡りをするのも、格調高い？楽しみだと思いますが、如何でしょうか。その為には、常に節制ある飲み方で、体調を整えて、楽しみを長く長く先送りしたいものです。　　またまた乾杯！

地域社会とのＣｏｍｍｕｎｉｃａｔｅについて　　２３機　榊原信行

紙面の都合で思いつく儘に脈絡を欠き断片的になると思います。

私事ですが、当たり前のサラリーマンから或る時点で［絶対失敗は許されないぞ］との覚悟で、自分なりに納得したウオーミング・アップをして脱サラー応期限を十年とした上で喫茶店の開店準備、予期していたとはいえたまたまＳ４８年の狂乱物価の波に遭遇したが、これからの競争に打ち勝つためにはそれ相応の重装備の店舗が必要と思いつつも初期投資が予定の倍近くなり、銀行との接触・資金の調達および調理人等の確保で生まれて始めて［新たなものを産み出す］苦労を味わった。

いま振り返ってみても、幸運にも立地が駅前の一等地にもなり、開店１年位から３年頃までは東京の一流店並に繁盛しましたが、徐々に売り上げの鈍化のトレンドを、見ていると矢張りこれは自己満足的な生産・販売サイドからではなく使用者消費者サイドに、たったＮｅｅｄｓ・Ｄｅｓｉｒｅに応え得るものである。Ｗｈａｔ　ｔｏ　Ｓａｌｅではなく、Ｈｏｗ　ｔｏ　Ｓａｌｅではなくては生き残れない。

Ｔｙｐｅ　ｏｆ　Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　（業種）ではなく、

Ｔｙｐｅ　ｏｆ　Ｏｐｅｒａｔｉｏｎ（業態）への経営姿勢の転換だと気が付きましたが、果たして当人が商売人になりきれるか（後継者もなし年齢的にも業容の拡大は無理）否かと判断・開業５年目位から実践とシナジー効果のあるものをと模索し残された人生を何にか生きてきた印でもと考え、マネージメント＆マーケッテングの分野の、学習を始めたところ大都会にはこんなにも真剣に学ぶ人たちが居るものかとつくづく感心共通の学習活動を通じての研鑽と社会人になり始めて、友人らしき人が出来ました。

それから又、自分の常識、専門領域での知識が、小学生並み程度だった事が思い知らされ、少なくとも１０年早く始めていたらとつくづく後悔もしました。何しろ５０半ばを過ぎての学習えの努力、特に暗記なぞは２０代後半から３０代前半の５倍～１０倍の労力を要すると思います。今ようやく（商売は初期通り１０年で廃業）これからの後半生を手前味噌ではないが、会社人間と違い客観的なＶｉｅｗ　Ｐｏｉｎｔから見られるようになった事と地域社会とＣｏｍｍｕｎｉｃａｔｅできるようになった事がこれからの

人生への生甲斐に付加して呉れると思います。企業経営に於いてもＣ・Ｉの確立：企業の社会的な存在価値と事業領域（ドメイン）－その企業独自の活動領域ｏｒ生存領域－を明確にする事がいやでも求められ最近、Ｍａｎａｇｅｒｉａｌ　Ｍａｒｋｅｔｉｎｇでは企業経営が存在するには最終的には使用者、消費者のＮｅｅｄｓ・Ｄｅｓｉｒｅを充足させ得る製品、商品を市場に提供し、そのための生産活動でもあるという点からもマーケッテングは、単なる企業の１セクションではなく、経営も抱擁するという言葉で置き換えるられます。企業の運営におけるマーケッテングの役割を「ドラッガー」は、［あらゆる経営機能の中で唯一成長を司る機能］であり［他の経営諸機能－財務・労務・生産・等－は其のためのコスト］とも位置ずけており、それは決定的に、

Ｓａｌｅｓ　ａｒｅ　ｔｈｅ　ｌｉｆｅｂｌｏｏｄ　ｏｆ　ａ　ｂｕｓｉｎｅｓでもある。最近の市場における商品化は、際限のない最少差異の新製品戦略が、駆使され、コミュニカビリテー（Ｃｏｍｍｕｎｉｃａｂｉｌｉｔｙ市場と会話する力）の優劣が、企業の命運を決すると言っても過言ではない。最近の日米構造協議の中でも当該地域の対応によっては大店法の緩和による商店街、地域経済に及ぼす影響は幕末の黒船以来のドラマチックな激変を受けると思います。対策としては、究極的に定式化していない。Ｂｌａｃｋ　ｂｏｘ部分の明解が急がれている。消費者購買行動分析えの努力が求められているのが現状です。稀に当方なぞ行政、商工会議所なぞとの接点を通じ、地域社会とＣｏｍｍｕｎｉｃａｔｅできる様になった事を本当に良かったと思っています。福祉の追及の中で、非経済的要因として、健康、生活環境、自己啓発等、特に連帯と参加すると言う言葉がこれから一番求められる時代と思います。若い人、年配の方々にとっても早晩、地域社会えのソフト・ランデングは必要と思います。

（所属）看板、肩がきを取った後の人生への対応は女性と違い、男性にとっては一夜漬けは無理と思います。尚現役の方々は機会を得て同窓の単なる懇親会以外に積極的な異業種の交流などは、Ｓｅｌｆ　Ｄｅｖｅｌｏｐｍｅｎｔ、発想の転換なぞも、引き出され、ひいては所属企業の貢献の一端ともなりませんか。終わりに、若し学習の方法学習書資料なぞ、御希望の方がございましたら遠慮なく申し出て下さい。提供いたします。

［分会だより］ 日産自動車分会の巻　　４０機　佐藤道夫

多賀工業会千葉県支部の一員として、初めてお便りをさせて戴きます。

月日の過ぎるものは早いもので、工学部を卒業して２５年、勤務地の関係で多賀工業会総会に足を運んでおりました。

入社以来東條社長（１７精　東條会館社長）に公私共にお世話になっております。学生時代自動車部としての年間活動の御報告と資金の御協力のお願い、これで東條会館での総会に特別参加を許して戴いたのも、懐かしい思い出として残っております。

その後は自動車部ＯＢ会なるものを続け、旧交を深めさせて戴きました。そんなことを思い出しつつ同窓生として仲間意識、共通する絆を最近強く感じる様になって来ております。日産分会としては数名を数える陣容（社内では、つくば会として１４０名程の同窓生を抱えております）でしかありませんが連携宜しく県支部の発展に御協力させて戴こうと思って居ります。

それぞれのメンバーに、参加すれば“何となく楽しい集い”である様な県支部としての文化を醸し出してみたいと考えております。

　今迄海外相手の仕事中心と言うことで、なかなか腰を落ち着けられませんが　今晩の欧州出発を前に筆をとらせて戴きました。今後とも宜しくお願いいたします。

私の履歴書　　２５電　小林喬夫

多賀工業専門学校の電気科を昭和２５年に卒業して、東邦電気株式会社に入社した。
旧国鉄の電気工事を主体にした会社である。
昭和５３年には、技術開発室長として、発明、考案等の出願を行う業務に就き、定年を迎えたが引き続き嘱託としてつづけている。
我々の年代は文字通り高度成長の基礎作りであり、途中何度も００景気とか、石油ショックに遭遇した。ゴルフでいえばＯＢやらバーディの繰り返しでもあった。
在職中は釣りクラブの会長として、東京湾の小魚を対象とした海釣りをやっていたのを現在も続けており、又能峡書道会の師範の免状を戴き、“静”の時を過ごしており、又“動”として東我孫子ＣＣのメンバーになりゴルフを楽しんでいる。
心豊にソフトランディングをするためにも、旺盛な何でも見てやろう、やってやろうと言う精神も必要ではないかと思う。
英会話も勉強したので近々海外旅行もして見たいと考えている。
同窓生の皆さんの中にも同じ考え、趣味をお持ちの方も多くいらっしゃると思うので交流の場を持ちたいものである。

通学の思い出　　２８機　関田達男

時代の変遷には、ただ驚くばかりです。最近の大学生は通学にバイクまたは自家用車を利用しているのが普通のようです。

今から約４０年前の私の通学状況を振り返って、隔世の感じがあるのは当然と言えば当然なのかも知れません。当時私は水戸市内にいて駅まで歩いて３０分、蒸気機関車で水戸～多賀間４０分、多賀駅より歩いて４０分かかったものです。

水戸駅から常磐線に乗る時は、何時も発車のベルが鳴っていてホームに駆け込むか、動き出した列車の客車に飛乗ったものでした。当時は多賀や勝田の工場に通勤する人達で何時も満員、やっとデッキの下のステップに足を置き両手で乗車口の取っ手を掴んでセーフ。鈴なりの状態で汽車は走ります。

那珂川の鉄橋を渡る時は、さすがに気持ちの良いものではなかったことを覚えおります

多賀駅から当時の国鉄の線路道を歩いて一路学校へ、レールの上や枕木の上を歩いて途中の田園風景を満喫しながら、日立電鉄の鮎川駅近くで左折し、今度は畦道を歩き谷を下り鮎川の一本丸太の橋を渡り崖を登って目指す学校の裏門に入ったものでした。

勿論、これが当時として多賀駅から学校に行く最短コースであったことは言うまでもありません。我が常磐線悪童グループの中に、現在東京に御健在でおられる西野先生も御一緒されたこともあました。

和気あいあいの毎日でしたが線路の上で風の強い雨の日には傘が吹き飛ばされ、全身びしょ濡れになって学校に辿り着くことも珍しい事ではなかったのです。

道路と交通機関の整備された現在、今は楽しい青春の一駒だった事と、当時を懐かしむ次第です。

［文芸欄］

多賀俳壇

２５電　塚越要夫

大揚羽ひかり抱えて塔のぼる

常連といわれ通ぶる冷し酒

鯉籠のいのちを少し振って見し

水鉄砲山のあなたへ飛ばしけり

逆転無罪青嵐身近に引寄せし

駅名連呼うつつに戻る昼寝覚

黒松の天貫通し蝉しぐれ

青蘆の一辺倒の大紫色

輪の芯にひかりありけり水馬（ミズスマシ）

花火消えどうとみどりの闇せまる。

登山電車あえぎつつ天開きけり

大道芸夏ばて猿にコイン飛ぶ

蝉の穴　大蟻の出で来たる。

月見草いたづらっ子の多き路地

蓮の実に半身に構え撮られけり

ガラス工房炎の残像を見て涼し

ガラス瓶のヨット晩夏の帆の迅し

大西日天の焦点定まれり

土用波の頂点の日に濡れけり

車椅子玉虫のごと湖晩夏

俳句の同好の志をお持ちしています。そうは簡単に行きませんが、その気になって経験を踏めば、非常に奥深いもので、人生の或る断面を１７文字に切り取ってみると言うテクニックの楽しみがあります。

俳句は、勿論「詩」でありますが、よい俳句と言うのは、「意見」と「開拓」と「表現技術」によって出来上がります。　　作者より一言

［芭蕉と鹿島紀行］

２４機　三幣　正人

江戸前期の俳人、松尾芭蕉（１６６４－９４）は藤堂藩の伊賀上野（三重県上野市）に生まれたといわれる。伊賀上野といえば天正１０年（１５８２）５月本能寺の変の時堺にいた徳川家康が、命からがら伊賀を越えて三河へ帰国した際、伊賀者の援助は絶大であったという。徳川時代は藤堂藩に属した。

芭蕉は、３６歳のとき延宝３年（１６８０）江戸にでて深川芭蕉庵に移った。
その後、日本各地を旅して、［のざらし紀行］・［鹿島紀行］・［笈の小文］・［更科紀行］・［おくの細道］・［嵯峨日記］等の日記・紀行文や・その他多くの名句や、純粋な詩的作品を残した。

［おくの細道］は、余りにも有名である。それに比較して［鹿島紀行］は、極めて短文であるため知る人ぞ知る作品であるが、「下総」「常陸」に関係が深いので敢えて取り上げて見ることにした。
貞享４年（１６８７）８月［おくの細道に旅立ったのは元禄２年（１６８９）だから、鹿島紀行はその２年前ということになる］４４歳の芭蕉は、門人曽良・宗波を伴って、早朝、芭蕉庵門前より乗船、小名木川を廻り『行徳』で船をあがり、筑波を眺めつつ、徒歩で『やはたという里』をすぎ『かまがいの原』日暮れかかるころ利根川のほとり、「ふさ」と言うところにつき、夜船さして『かしま』にいたると書かれている。
（「」は下総・常陸の地名　）
ここで俗ぽい疑問が、湧いた。というのは要するに深川から鹿島までたった１日しかかからなかったということだ。

昨今なら首都高速湾岸線から東関東自動車道を利用すれば３時間から４時間位で行けるが、船・徒歩を利用して果たして１日で行けるものか、急いで行けば行けないことはないが、何か行かねばならぬ理由が、あったのではないかということだ。

深川に生まれ育ったから此の方面は熟知してしているが、実地に調査を繰り返した。
行徳を歩き、「木下（キオロシ）街道」を別の用件もあって何遍もあるいた。
潮来も鹿島神宮も調査してみたが、俳人は、余程健脚であったと想像出来る。

文中［このあき、かしまの山の月見んとおもいたつ事あり］が旅行目的になっている。だが、［かしまの山の月見んと］・［おもいたつ事あり］という文章は、脈略がないようにおもう。もっと明解に表現出来ないものか。或る意味では芭蕉のこのような思わせ振りの表現が特徴の一つとして、読むものが素直に読めばよいのかもしれない。

「かしま」のことは「神前の三句」記載されている。

此の松の実ばへせし代や　神の秋	桃青（芭蕉）
ぬぐはゞや　石のおましの苔の露	宗は
膝折ルやかしこまり鳴　鹿の声	ソラ

帰路、自準（じじゆん）に宿ス

墫せよ　わらほす宿の友すゞめ	主人
あきをこめたるくねの指杉	客
月見んとしほ引きのぼる船とめて	ソラ

自準（じじゆん）は、定説では潮来に隠棲した医者本間自準とされている。此の三句でで、鹿島紀行を結んでいる。

ただ、行徳の神職で小西自準という説もある。この説に従えば、芭蕉一行の宿泊したのは潮来ではなく、［行徳］と言うこよになる。

［行徳］で神職で小西自準という人を捜してみたが、中々判明出来なかった。だが、諦める事無く暇があったら明白にしたいと思っている。「市川」には芭蕉の五十回忌を供養する「翁塚」が国府台４丁目の医王山泉養寺にあり昭和二年芭蕉庵からほど遠からぬ猿江（江東区）から移転した際に運ばれてきた。五十回忌は享保三年（１７４３）で俳人千梅が門下の有志と計り敬仰のしるしとして建てた供養塔で、碑には「桃青居士・感応院」の文字がみえるが、桃青は芭蕉・感応院は千梅の俳句の師匠である。

百回忌（正確には寛政六年）寛政九年（１７９７）には、行徳の本塩の仏性山法善寺の本堂左手前に供養のための句碑が残っている。［行かねばならぬ理由］についてはこの時代の背景の歴史を繰り返し読みなおしている。思いあたる疑問もあるが「考証の裏」がとれないので今回、発表するのはどうかと思うので次の機会に譲りたい。

年会費納入者氏名（平成２年8月31現在・敬称略）

16　大西敏之　杉本喜久雄　原田正夫　木村一夫　田中康雄　前田晴郎　長尾和愛
　　渡辺義治
17　地曳一夫　羽鳥忠雄　寺山　巌　桧山良平　久米三雄　市東志郎　林　詮
　　今村　勝　塚原　重
18　菊池正敏　大内　弘　星野正良　加藤清明　酒井清勝　板倉　正　石井弥二郎
19　萩谷　進　大山　巌　木植和夫　鈴木幸男　東方　晨　曽根晃平　小林秀夫
　　小久保　勇　山田泰雄
20　島田　清　杉田有一郎　白鳥忠雄　鈴木友生
22　御園生計夫　福地敏郎　額賀利厚　佐藤　豊　川崎幹夫　安達恵三郎　伊藤勝衛
　　明石和夫　高山和夫　井川滋郎　山本芳正　佐川秀雄　大木政虎
23　岡村哲夫　大久保勝躬　鈴木　守　平野雄一　金沢　昇　三橋　宏
　　桜井　宏　清宮文雄　高島謹一　松平静和　海野政之助　平島　勇　大川栄一
　　岩下　晃　篠崎光夫
24　栗谷川文司　草刈　董　庄田司郎　榊原信行　三幣正人
25　野田茂信　小河　孝　塚越要夫　平栗泰治郎　宮島正弘　森　勇一　小林喬夫
26　長谷川宏佑　川上　明　飛田良雄
28　飯田　弘　吉田哲夫　山田　允　石島　勺　吉田栄一　関田達雄　横井昭夫
　　橋本武夫　税所　裕
29　北村　健　大津正夫　大津勝男　榊　陽
30　目黒　久　檜山邦良　住谷永夫　綿引敏雅　中野義正　手塚　滋　石川安男
31　田中　宏　中川　洋　酒井健治　和田　忠
32　榊原康夫　大和田武義　段家文彦
33　照沼義光
34　芝山佑芳　黒沢一之　阿久津嗣夫　皆川孝之　横山木積　館　梅里
35　渡部林二　草刈謙次　土屋孝右　高橋　清　大住　淳
36　関谷　廣　久野　清
37　陣野友久　原　英雄　石川隆久　富田宣吉
38　岸根寿明　渡辺富勝　綿引貞男
39　市瀬忠彦
40　高橋長久　鈴木　紘　佐藤道夫　北村勝昭
41　渡辺昭夫　木村　保
42　磯村信宏　井沢勝美　浜野紘一　新実千冬
43　岡田猛彦
44　日置和夫　宮田敏夫
45　時岡誠剛　高木宜和
46　高橋利夫　兼巻良勝　深山泰一　加藤清一
47　斎藤雅浩　金坂　潤　小出喜右衛門
48　沼倉研史　浅野哲夫
49　宮内賢一
50　八木茂樹
51　馬目正雪
52　富永哲夫　倉川久男　田中　隆
53　曽根　勉　八木純明　弓削直樹
54　柴森活之
56　中村祥孝　川上雅弘
58　山本正博　酒向　博
59　狩野　宏
60　神田　建　青柳良樹
61　小堀繁治　小野間　満
62　早野　太　秋葉健司　中村昌巳

６３　高根　猛　西沢和夫　判野　晃　清水理枝
Ｈ１　桑原弘明　望月輝久　菅沢公夫　水野雅之　徳永敬一　長谷川晃久　並木明生
　　石橋　忠　泰　義明
Ｈ２　田中芳幸　成島和男　新保　修　丸山尚正　長瀬浩亨　押田正樹　小野間　隆

報告事項

１　５０周年記念事業募金申込み状況　（平成２年４月２０日現在）

多賀工業会会員	２４５９名	５５，３１５，０００
工学部、短大教職員	１１１名	３，８９１，０００
企業	１８４件	１３８，３７５，０００
	計	１９７，５８１，０００

２　九州支部発足　平成２年５月１９日　支部長　定村裕三　会員　６６名
３　栃木支部支部長交替　新支部長　菱田武彦
４　総会案内及び会報発送・返信状況

発送総数	９２９通	未返信者	６５５通
返信数	２５７通	年会費納入者数上記記載	１９５名
住所不明者	１７名		

編集後記

訃報１９電機　土屋　正氏
２２電機　宇留野　豊氏
２５機械　早川　昭一氏

三氏が御逝去されました。
衷心より哀悼の意を表するとともに、
御冥福をお祈り申しあげます。

１：平成２年度の年会費の納入は、支部長が報告しました如く極めて順調に推移いたしております。支部の活動は、年会費で運営されますので今後ともよろしく。

２：投稿が、毎回多くなって編集者は「嬉しい悲鳴」をあげております。ただ編集時間が少なく、不行届のため御不満の方もおいでかと懸念しております。誤字・脱字等ございましたら、遠慮無く御指摘ください。

３：今回の内容に［異業種融合・懇談会］の必要が盛られているのにきがつきました。昨年末に忘年会を開催しました。其の際［異業種懇談会］を持とうと言う発言がありました。職種・職場が異なる同窓生と忌憚のない交換の機会をもち、お互いに、「知り得ないことを知り」何かに役立つことを目的にしようと言うことです。
具体的運営の方法には及びませんでしたが、一考に値する問題だとおもいます。

４：その他、バス旅行・ゴルフ会・等のアンケー用紙が、同封されております。多数のご返事を期待しております。

文責者　幹事長　三幣　正人